

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2016年10月25日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶



辻村 彰秀 会長

皆さん、こんにちは！
先週の“ウメコ”“じんりき厨房”でのお月見例会、参加して下さりありがとうございました。特に会場監督、親睦委員会の方々、初めての場所での会場設営、運営、ご協力ありがとうございました。
先週の金曜日、10月21日午後2時ごろに鳥取県中部の倉吉市や湯梨浜町にて震度6弱の地震が発生しました。約4万戸が停電し、家屋の倒壊、被害が相当数あり、まだ余震が200回以上続いて発生しているようですが、ライフラインも回復しつつあり、幸いにも死傷者はいられなかったとのことで不幸中の幸いと思っております。
本年4月14日には熊本地震もありました。一年の間に震度6以上の地震が2回も発生し、発生場所も想定外の意外なところでした。又、阿蘇山、桜島も今年噴火しており、私は少々不気味さを感じています。皆様には、備えあれば患いなしのお気持ちにて、突然の災害に対応、準備していただきたいと思っております。

余談ですが、得意先の鳥取の観光問屋に電話で聞いたところ、鳥取砂丘や米子等の観光地はまったく影響なく、宿泊施設、観光施設も通常営業しているそうです。震源地に近い倉吉市周辺でも一部の施設が復旧中ですが、ほとんどの施設は営業しているそうです。ただ、地震後、宿泊のキャンセルが相次いで入り始めていて、今後が大変だと言っております。箱根の噴煙の時もそうでしたが、心無い風評被害等が、その後の復旧の妨げになるのだなと思えました。

本日の卓話は、“木を植える大切さ、マータイさんとの出会い”という題目にて、もったいないkids植林プロジェクト代表理事の伊藤恵里子様です。この題目をみて“マータイさん”とは、と思い、少々調べてみました。この方は、2004年にノーベル平和賞を受賞されたケニア出身の女性環境保護活動家のワンガリ・マータイさんです。来日時に日本語の「もったいない」という言葉を知って、感銘を受け、よく使われたそうです。当時はよく日本のマスコミにも記事が出ていた方で、大変大柄な女性です。詳しいことは、伊藤様の卓話にてお楽しみください。

来週、11月1日の例会は休会となります。忘れて例会場に來られても開いておりませんので、お間違いないようお願いいたします。11月の月初例会は11月8日になります。以上、本日の会長挨拶でした。

❖ 幹事報告



櫻井 康二 幹事

1)次週は休会です。次回例会は11月8日です。宜しく申し上げます。
2)次回例会日11月8日は理事会が開催されます。理事の方、宜しく申し上げます。

❖ 出席報告

齋藤 永 委員長

| 出席報告 | 会員数 | 出席 | M.U | 出席率 |
|--------|--------|----|-----|--------|
| 10月25日 | 39(36) | 25 | 2 | 75.00% |
| 10月18日 | 39(36) | 27 | 0 | 75.00% |
| 10月11日 | 38(35) | 26 | 3 | 86.86% |

【欠席者】11名

露木 清勝、須藤 公司、本多 純二、清 康夫、内山 修一、木村 啓滋、一寸木 芳行、大川 裕、長田 英一、志澤 昌彦、大高 英之

【今回MU】2名

露木 清勝 (10/16 地区大会)
本多 純二 (10/16 地区大会)

【前回MU】増加なし

【前々回MU】1名増加
石崎 孝 (10/20 新会員の集い)

❖ Table flower

【花言葉】

- ガーベラ
 - 都わすれ
 - スプレーカーネーション
- ガーベラ：「希望」
都わすれ：「別れ」
スプレーカーネーション：「情熱」



❖ 卓話

「木を植える大切さ、マータイさんとの出会い」



もったいないkids植林プロジェクト
代表理事 伊藤 恵里子 様

私は2004年にノーベル平和賞を受賞した故ワンガリ・マータイさんの遺志を継いで、彼女から頼まれたことをコツコツと日本でやっています。マータイさんは2011年に亡くなりました。人はいつからでも何歳からでも変われると言いますが、実は私は32年間広告代理店に勤めていて、夜中の3時まで仕事をする毎日を送っていました。時間に追われ、社長クラスの人との折衝をし、1億2億の話を瞬時に決めてもらうような仕事でボロボロになっていました。そこで50歳で独立すると決めて会社を辞めました。ですから人はいつからでも何歳からでも変われるというのは本当だなと思います。辞める1年前にマータイさんと出会いました。彼女は2005年に初来日して色々な人から「もったいない」という言葉を聞き「それは何だろう？」と興味を持ちます。『もったいない』は仏教用語であると教えられて感心したそうです。その後アメリカの世界婦人デーで『もったいない』を推進しようと言いついて有名になりました。その頃、私は遊び歩いていて環境のことなど何も考えていませんでした。友人から「ノーベル平和賞の受賞者が来日するので企画してくれないか」との話が来て、気軽に受けてしまったのです。しかしそれは大変なことで、聞いたのが11月で2月に来日する、と。警備やスケジュールの問題が山積みで3か月では難しい状態です。小さなことでも手を付けようと、とにかく彼女のことを調べ始めました。自分のことでなく自分の住む街に関心を持つとか、公共を共有しようとか、広告代理店向きでない環境保護や社会貢献の領域の話でした。私にとっては一度も考えたことのない辛いことでした。

彼女は1940年にケニアの貧しい農家に生まれています。その村には山の上に無花果の木があり森林があって川が流れていました。その水を汲んでから子供たちは学校へ行きます。ケニアの朝は寒くて、木の枝をどンドン切って燃やしていました。無花果だけは実を取るため切らずにいたのですが、木が少なくなると川は小さくなっていきます。今まで30分で水汲みに行っていたのが2時間3時間かかるようになり、学校に行けなくなりました。貧困が教育を奪っていくわけです。川がなくなると畑もできなくなり、女性たちは何も収入を得られなくなります。彼女は奨学金でアメリカ留学し、何故自分の村はこんな貧しいのか考えたそうです。私たちの活動を『もったいないkids植林プロジェクト』と名付けているのは、彼女の生き方に感動したからです。テストで村一番になり大学を出て戻ってきたらケニアがどンドン貧しくなっている。何故だろうと考え、貧しさの悪循環に気づいて上を見上げたら無花果が1本だけ残っていた。そこで「まず木を植えよう！」と決めます。木を植えれば川が戻ってきて畑が作れる。最初7本の木を友達と植えました。それがノーベル平和賞をもらうときには3千万本まで増えたそうです。どンドン木を植えたことで違う部族の皆と話すようにもなりました。言葉が違っていても、木を植える時には自然に話すようになります。他部族の人たちが話すようになったということで、マータイさんが色々な部族をまとめて

自分が偉くなりたいんだと言われたりしました。そのせいで何度も投獄されています。彼女がその時植えたのは、実の生る木でした。実が生るならそれまで切らない。実が生ったら皆で食べようと大切にしてくれるように選んだそうです。最初に本を1冊読んですごい人だと思いましたが、そこからが大変でした。イベントにはモノ・ヒト・カネが必要です。一番先に考えたのはカネでした。木と言えば農林大臣だろうと紹介してもらったら、副大臣の秘書官が林野庁へ回してくれました。林野庁では、素晴らしい企画だけれどお金がないから緑の募金をやっている国土緑化推進機構へ行きなさいと言われます。1日の内に3つ目の国土緑化推進機構の常務に会って話をしたら、協力しますよと言ってもらえました。しかし300～500万かかると話したら「今そんなにお金がないから無理ですね」とのこと。帰ってから色々調べてあちこちに電話しまくっていたら、もう一度国土緑化推進機構から連絡があり「今はそんなにお金がないが来期にはまた予算が出せるからやってみなさい」と。本当に払ってもらえるか不安でしたが、まずカネは何とかなりました。次にヒトです。2/17に来日してからのスケジュールは一杯でしたが、福岡から大阪へ移動しホテルに入るまでに1時間のゆとりを見つけました。この1時間で大丈夫と思い、マータイさんのスケジュールに入れてもらいます。真冬の寒い時期で、大柄な彼女にも着られそうな防寒用の服を両国まで買いにいきました。大阪では子供と一緒に植樹してもらいたかったのも、全国子ども会連合会へ電話して大阪の子ども会を紹介してもらいました。最後にモノです。苗木はどうするか？盛り土や肥料は？園芸協会の会長に電話しました。時間がない時は上から攻めるのが一番です。そうしましたら土も苗木も用意するとおっしゃっていただけました。それで全てが揃ったわけです。イベントは子供たちと7本の木を植えて一緒に行事をやって1時間で終了です。私はその前たまたま富士山清掃登山に行っていました。朝7時に新宿駅からバスで向かい、ごみ袋を渡されてすべてのごみを拾うように言われます。一つも見逃してはいけません。草の下に産業廃棄物が山のようにあったり、本当に大変でした。でもバスから降りる時には「ありがとうございました」と自然にお礼を言っていたのです。自分の中の何かが急に変わった瞬間でした。その後にマータイさんとお会いしたので、この人と一緒にやろう！と決めました。53歳の時です。退職してすぐにNPOを作り、社会貢献を続けています。マータイさんとお話した時に約束したケニア訪問は印象的でした。日本は国土の2/3が森林ですが、ケニアには2%しかありません。でもその中でマサイ族などは自然にエコな暮らしをしていて感心しました。貴重な体験でした。改めて「もったいない」とはどういうことでしょうか？ごみを無くすReduce、再使用するReuse、再資源化するRecycleの3つのRは有名ですが、マータイさんは4つめのRを日本で見つけました。それはRespect、そのもの自体を尊敬することです。容器の隅に残った飲み物も尊敬して捨てないことです。私は2006年に『もったいないkids植林プロジェクト』を作りました。今まで全国27都道府県52か所に木を植える活動をしています。苗木から育て、適地適木で選んで植樹します。誰かのためにやるのは人間にとって一番力の湧くことです。自分にできることから始める、皆で力を合わせる、そういったマータイさんの考えをこれからも繋げていきたいと考えています。